

政策分析シート（平成29年度）

政策名	良好で快適な生活環境の形成	政策No	08	部名	防災都市づくり部		
関連部名	環境清掃部	部長名	松土	内線	2800		
行政評価事業体系	分野	環境先進都市					
目的	住みたい、いつまでも住み続けたい街の実現を目指して、花と緑あふれ、うるおいと安らぎの場を区民に提供し、安全で快適な生活環境の充実に取り組むとともに、細街路の拡幅や道路の適正な維持管理、まちの環境美化等を進め、良好な住環境の維持・向上を図る。						
指	幸福実感指標名	指標の推移			指標に関する質問文		
		26年度	27年度	28年度			
	生活環境の充実	3.13	3.19	3.22	お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？		
	まちなみの良さ	2.90	2.96	2.95	お住まいの地域のまちなみ（景観・緑など）は良いと感じますか？		
	周辺環境の快適さ	2.97	3.05	3.03	お住まいの地域で、生活する上での不快さを感じますか？		
標	政策の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明	
		26年度	27年度	28年度	29年度見込み		
	公園・児童遊園面積（ha）	42.8	42.9	43.4	43.4	48.0	
	住みよいと感じる人の割合（％）	88	90	91	92	95	区政世論調査
	細街路後退用地整備率（％）	39	40	41	42	51	整備延長 / 整備対象道路延長両側（自主整備含む）

（単位：千円）

行政コスト計算書	行政費用	勘定科目	27年度	28年度	差額	勘定科目	27年度	28年度	差額
		給与関係費		453,402		地方税等		0	
		物件費		796,530		国庫支出金		30,167	
		維持補修費		396,679		都支出金		17,761	
		扶助費		0		分担金及び負担金		0	
		補助費等		91,926		使用料及び手数料		881,579	
		減価償却費		338,563		その他行政収入		154,408	
		不納欠損・貸倒引当金繰入額		0		行政収入合計(a)		1,083,915	
		賞与・退職給与引当金繰入額		31,555		行政収支差額(a)-(b)=(c)		1,427,566	
		その他行政費用		402,826		金融収支差額(d)		5,666	
行政費用合計(b)		2,511,481		通常収支差額(c)+(d)=(e)		1,433,232			
特別費用(g)		0		特別収入(f)		184,452			
特別収支差額(f)-(g)=(h)		184,452		当期収支差額(e)+(h)		1,248,780			
貸借対照表	流動資産	勘定科目	27年度	28年度	差額	勘定科目	27年度	28年度	差額
		収入未済		43,348		流動負債		83,654	
		不納欠損引当金		0		還付未済金		0	
		その他の流動資産		0		特別区債		61,432	
		有形固定資産		220,585,384		賞与引当金		22,222	
		土地		203,274,616		その他の流動負債		0	
		建物		6,961,079		固定負債		540,119	
		建物減価償却累計額		3,086,916		特別区債		211,625	
		工作物等		31,662,854		退職給与引当金		328,494	
		工作物等減価償却累計額		5,133,043		その他の固定負債		0	
無形固定資産		0		負債の部合計		623,773			
建設仮勘定		8,251		正味財産		220,021,872			
その他の固定資産		8,662		正味財産の部合計		220,021,872			
資産の部合計		220,645,645		負債及び正味財産の部合計		220,645,645			

政策の現状・課題・今後の方向性

現状	<p>都電荒川線の沿線をバラで包み込み、美しい景観の創出や区民の心に潤いや安らぎを提供するため、バラの植栽数の増加に取り組んでいる。また、道路ストック総点検の実施や道路橋の点検等を実施した。</p> <p>居住環境は過去の住商工が共存していた時代から、再開発事業の進展や民間マンションの建設等により、大きな変化の時期を迎えている。</p> <p>『荒川区花と緑の基本計画』に基づき、公園等面積55.2haを目指し、平成18年度には41.6haであった公園等の面積を着実に増加させ、平成28年度には43.4haとなった。</p>
課題	<p>都電沿線バラの植栽数を増やすとともに、バラを区民とともに育てていくため、その担い手である「荒川バラの会」の活動をより一層充実させる必要がある。また、区民の最も身近な都市施設である道路をいつまでも安全かつ安心して利用できるよう、適正な維持管理及び拡張・改修等の整備を行う必要がある。</p> <p>定住人口の維持・促進を図るため、高齢者・障害者・子育て世代などの居住支援要配慮者を含め、だれもが安全安心で快適に暮らせる居住環境を整備する必要がある。</p> <p>『荒川区花と緑の基本計画』で目標に掲げている公園等面積を確保するためには、引き続き、公園等を整備する必要がある。</p>
今後の方向性	<p>都心に近接した立地と交通の利便性を生かしつつ、身近な居住環境の整備を図り、住みやすく働きやすい快適な街を形成していく。</p> <p>下町の風情を残した街並みを生かして、開発と調和の取れた魅力ある景観づくりを推進していく。公園等の整備や電線類の地中化など、環境に配慮した清潔で美しい街づくりを推進していく。</p>

政策を構成する施策の分類

施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
	29年度設定	30年度設定	
緑とうるおい豊かな生活環境づくり	重点的に推進	重点的に推進	花と緑があふれる、快適な、かつ愛着のわく街を創出していく必要がある。 また、街の防災性向上のためにも、目標とする公園等の面積確保に向けて、積極的に取り組む必要がある。
快適な居住環境の形成	推進	推進	良好な居住環境と良質な住宅を確保し、快適に暮らせる街づくりを推進する。
快適な生活道路の整備	推進	推進	環境に配慮した道路の整備、バリアフリーに対応した道路施設の整備を進めるとともに適正な維持管理を行っていく。
まちの美化の推進	推進	推進	区民が安心して暮らせる環境を守るため、各部や関係機関と連携を図り、区民の健康と安全の確保に努めることは、基幹自治体である区の責務であり、本施策を継続する。